

石西礁湖サンゴ礁基金のこれまでの活動と今後の方向

特定非営利活動法人 石西礁湖サンゴ礁基金

1 NPO 法人設立の経過と法人の目的

平成 25 年 1 月 31 日 第 16 回協議会で、旧石西礁湖サンゴ礁基金（運営委員会）の事業を引き継ぐ NPO 法人を設立することを承認

3 月 7 日 沖縄県に認証申請 5 月 10 日 認証

5 月 21 日 設立登記、法人成立

目的：協議会メンバーと協力して、サンゴ礁再生の取り組みを行う

2 これまでの活動の検討

(25・26 年度事業については、基金 HP「NPO 法人について」のページの「事業報告・決算報告」を参照してください。 <http://www.strata.jp/sangokikin/about.html>)

(1) 農地からの赤土流出防止のための農家支援

- ・サトウキビの株出し推進中心

株出しの面積は増えているが、増加のスピードは落ちている

収穫面積 2010/11 期 203ha 2014/15 期 440ha（全収穫面積の 3 分の 1）

- ・その他の赤土対策 いくつかのメニューを実施したが、まだ普及していない
雨水等の地下浸透を促進するサブソイラー作業支援は、平成 27 年度県（市）事業で採用されている

(今後の課題)

- ・農家への啓発と行政施策への反映等を通じ、対策の普及、規模の拡大を図る
- ・株出しをさらに増やすための方策、サトウキビ夏植対策等、新たな対策の立案

(2) オニヒトデ対策

竹富町ダイビング組合に資金を提供する形で駆除を実施（平成 26 年度）

(今後の課題)

大発生が終息しても、監視と駆除の継続は必要であり、どのような支援が必要か検討する。

(3) 環境教育

赤土問題をテーマとして、県赤土補助金により実施（高校、平成 26 年度は小学校も）（今後の課題）

わくわくサンゴ石垣島など他団体との分担も含め、内容、範囲の拡大を目指す（特に中学校ではこれまで行っていない、社会教育には手を付けていない）

(4) 広報啓発

イベントなどでの広報 みなとまつり、石垣島まつり、リーフレット配布等

今年度はサンゴウィークで、3/5（土）に補植体験を含むイベントを企画

(今後の課題)

- ・何を伝えるのか検討要、行動の呼びかけも必要ではないか
- ・さまざまな媒体を考える

3 現状と問題点

(1) 活動の参加者

- ・会員は、少しずつだが増加（団体会員は少ない）
- ・協力者は出てきているが、中心となるスタッフが不足
- ・参加型の事業がない（今回のサンゴウィークのイベントで実施予定）

(2) 資金

- ・この3か年度、沖縄県赤土対策支援事業補助金を受け、26、27年度は民間助成金を受け、寄附金、会費の収入を合わせると、現在の活動を行うのに見合った収入はある。
- ・運営費に向けられる収入は、専用の事務所と専任職員を置くには、大幅に不足。

(3) 事業

- ・少しずつは拡大している。
環境教育を県赤土補助金が得られたのを機に始め、27年度はサンゴウィークのイベントを計画
- ・赤土流出危険度の高い農地の土地利用転換など、アイデアはあるが、具体化に至っていない。アイデア自体も不足。

4 今後の方向

(1) 前回協議会報告で今後の課題として挙げたもの

- ① 新たなプロジェクトの立案、特に、実効性ある陸域対策や参加型の事業
- ② 会員、寄付の拡大、企業への支援要請
- ③ 専任スタッフ（中期的課題）

引き続き課題となるが、実際にどう進めるかの具体的な案が必要

(2) 進め方のいくつかの案

- ・イベントや広報を通じ、会員、協力者を増やす
- ・事業又はアイデアを募る（協議会外にも向けて）
（支援対象とするか共同事業とするかは、提案者とその内容により、さまざまな形があり得る）
- ・寄付集めの方策を考える
- ・上記全体に関係するが、広報啓発に力を入れる。

(3) 将来は

サンゴ礁再生のために、すべきことはまだまだあるはずだし、NPOとしてできることもあるはず

特に、長い目で見れば、全体構想の長期目標でいう「人と自然の健全な関わりを実現」するためには、一人一人の生活が問われることになる。NPOならではの取組みの可能性が広がり、NPOの役割は今後ますます重要になると考えられる。